

大阪（伊丹） - 種子島直行便就航 歓迎イベントを実施

8月1日から31日の間、大阪（伊丹）種子島間の直行便が就航し、8月2日に歓迎イベントを行いました。今年の直行便は、ジェット機（J-1A1Rエンブラエル170）が就航し、この日は、約70人の旅行者や帰省客が種子島を訪れました。当日は、関係機関や種子島中央高校の生徒が記念品やパンフレットを配布し、歓迎しました。



チャレンジ・キッズ 日置市との交流



7月30日に、第3回チャレンジ・キッズ活動「日置市の子どもたちとの交流」を行い、日置市の小学5年生から中学2年生までの13人が種子島を訪れました。活動では、カヤック体験やレクリエーション、バーベキューなどを行い、日置市の子どもたちと交流を深めました。参加した飛知和ちな美さん（中田）から「どの活動も楽しかった。このような交流活動でお友達ができてよかった」とあいさつがありました。

地域おこし協力隊通信（No.115）

こんにちは。企画課協力隊の鈴木花奈です。種子島に移住してから「6次産業化」という言葉をよく耳にするようになりました。6次産業化とは、1次産業の生産、2次産業の加工、3次産業の販売を組み合わせ、地域資源を活かして新たな価値を生み出す取り組みです。1×2×3116という掛け算のイメージが分かりやすいですね。私の地元・埼玉県では祖母が草加せんべいを加工・販売していますが、6次産業化について深く考えたことはありませんでした。しかし、種子島に来てその重要性を実感するようになりました。1次産業だけでは地域が持続しにくく、生産×加工×販売の掛け算で未来を守る必要があるからです。農業の町・種子島にとって大切な視点だと思います。とはいえ、一人で生産から販売まで担うのは簡単ではありません。1次を担わずとも加工・販売に取り組む方など、役割の組み合わせで可能性が広がるのではないのでしょうか。

先日、農村婦人の家で1・2・3次の人が集まって6次産業化

マッチングイベントが開催されました。平日にもかかわらず20人が集まり、年齢や業種問わずグループワークで盛り上がる姿が印象的でした。「こういう会が欲しかった」「次も参加したい」という声もあり、町の6次産業化が少しずつ形になっていく未来を想像して嬉しくなりました。今回の目的は新しい事業を生み出すことではなく、まずはお互いの状況を知ること。農家さんからは「少し傷があるだけで買い取ってもらえない」一方で、調理の現場からは「傷があっても問題なく使えるので欲しい」という声があり、1次と2・3次のニーズが重なり始めているように感じました。

